

<巡検報告>(2) 秦野盆地巡検記

大谷, 成男

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学研究室

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政地理

(巻 / Volume)

1

(開始ページ / Start Page)

35

(終了ページ / End Page)

36

(発行年 / Year)

1950-07-01

② 茶野盆地巡検記

大谷 成男

茶野盆地巡検は大茶野駅前歌河川、水無川のほとりに陣をつくり、夏田先住の特徴的な *Jotation* ある概観説明に始まった。「茶野盆地は関東山地の南部を占める丹次山塊と大磯地塊との間にある陥没地帯であつて、盆地底は周囲の山地殊に北方の丹次山地から河水によつて運ばれた土砂、礫が堆積し西北部から東南部にかけて緩斜する大扇状地を形成している。盆地の南縁は大磯地塊の北端をなす東西の逆断層によつて割され---」という盆地及び周辺山地の構造の説明に従つて、一同は *Wind gap* を東南方に遠望し、又室川の露頭を観察しつゝ盆地南部の隆起した地域渦綫綫動地塊長蛇の列は向う。渦綫丘陵上に於ては震注湖を観察し150mの等高線上を利用して盆地全域を展望、壮年期の山貌を呈する丹次山地をほるかに眺め *Fault, Piedment*, 盆地内の水系等について説明を伺う。これより下りは煙草の畑道を「煙草と地質、気象の関係等と人文地理学者はおつしやるがどうだかね---」という先住のアイロニーを伺いながら茶野の「土地利用の状態」「耕作業の特性」を観察し乍ら茶野町に戻る。町を東行して扇状地末端の湧水地塊の一つである首屋神社附近の湧水個所を見る。此処で「地下水の状態」「水と土地利用」「聚落の分布と水との関係」又湧水個所にはよく神社があり純朴な農業人の水に対する敬虔な伝統的精神等の説明があつた。(晝) 午後は更に北行し、金目川の旧扇状地原面上に上る。此処で西北方からの兎争な扇状地のスロープを眺め、島葉川の *incised meander* を見る。之からは露頭を観察し、地質構造に注意しつゝ進む。再び茶野町にコースを取る。駅前まで、夏田先住の傍で熱心に説明を聞く優等生組と、ほるか後方から三三五五足を引きづる秀才組、思ひ思ひに観察を茶野町に加えて行く。茶野町は盆地及び附近農村の経済的中心であつて市場町としての特色が濃厚。幹線街道は扇状地上の等高線の方向と一致する西南—東北のものと自然傾斜の方向と一致する西北—東南のものと二つで、之が所謂 *main street* で直交して居り、立派な商店街をなす。町の北部に位置する首屋その南の乳牛、東南部の御門には藁葺屋根で広い前庭、納屋、家畜舎等のある一般農家があるが、人口一万を有し地方的中心郡邑に於て商店区と相對して農家区を識別し得ることは茶野町の特徴である事。又水無川の北岸の遊樂区ともいふべき地区に煙草耕作を主業とする藪ながらの百姓家の愛く杯狂で

ることにも聚落景観上の一つの特異性と見られた。バスの停留場に着いたのは未だ日高く陽炎の末大礫地塊を横断して二宮の海岸へ出ることに一決。一同車上の人となった。指導を頂いた畠田先生に謝意を表する次第である。

③ 上野原実習報告記

大橋俊郎

『上野原附近は前編関東山地（秩父古生層等の比較的古い岩石より成る）と丹次山地（予三紀層等の比較的新しい岩石より成る）との接觸地帯に在りたる地帯の一部に当り盆地状を示し、この盆地には地質時代の桂川が流れ、厚く砂礫を堆積した後、教団庵記が行われ其後の復活が行われた。』と大久保先生から地質の概要の御説明を受けた我々は測量器具をかついでその一つの段丘崖である駅前急な石段を登り、屋敷の中を遡る然にして新道へ出た。早速地図上に現在の位置を求め、段丘崖上の新道を面へ進みやがて田園道に出てここで平坂をすえることにした。まず起立してから道があるが仲々水平にならない。簡単な作業なのであるが先生の指導を受けつつすえた。数を表しアリゲート等のぞく。ハンナングを後に置いて花目をつがって一人前の測量士になったつもりのを、土地の人が通りがかり測量屋さんかと話して行く。前方交差、後方交差により図根表を記入、傾斜だけではハッキリしなかつた傾斜をやすく理解出来る。実習の必要性をこゝでも充分感じた。トンネルの入口、山頂の独立樹等、アリゲートの小さな穴から見る世界は別世界である。簡単な操作でも正確な測量が出来ると先生の言われたが実際に使用して見て是れ程なものだと思ふ。南東方に岡山先生をなぞみ深いケルン、バット、三角未満区を見る。断層崖の模範的なものを見て柱をた学習をなした。やがて出発、途中鶴川の双蕨斜面、大きな扇形侵蝕を見、上野原町に入る。『上野原は其の名の如く段丘上の聚落であり地質的中心で生糸の取引地にして養蚕は家内工業より発達し、上野原段丘は現在は稲田湖であるが以前は桑畑であつた様で鶴川から水を引いて用いたのだからと御説明がある。

水羊島 若場町、本陣跡を見学、最近本陣は焼失したが非常におもしろいことを見た、この様な例は近年度々起るが我々はこの様な文化的遺産の保存対策につとめるねと感ずる。

町を通過背後の丘に登り測量実習を始め白紙上にだんごんヒョムター